

国後島から持ち出された馬頭観世音菩薩座像と信徒名簿

別

海町の南矢白別に祀られている馬頭観世音菩薩座像は、国後島泊村の松泉寺で住職をされていた松田光保さんが昭和二十年の脱出時に持ち出したものです。松田さんは仏像の他にも信徒名簿、経本などを持ち出していました。

光保さんは脱出後、別海町の上風連開禅寺の住職をされていましたが、昭和二十三年に根室の寺院に移る際、香川地区（南矢白別町内会）にこの菩薩像の引き取りを相談し、当地区の有志によって一坪のお堂が建てられ、菩薩像が安置されました。

年月の経過に伴い、当時の経緯や菩薩像の存在を知る人が少なくなってきたことから、平成二十一年に傷みの激しかった菩薩像や観音堂の修繕とその由来の調査が行われました。

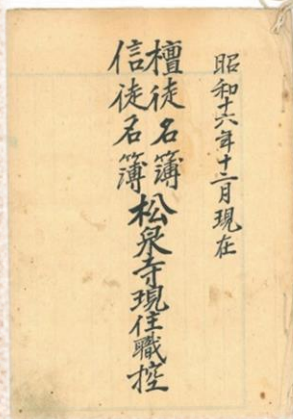


調

査の結果、この菩薩像が国後島泊村古丹消地区の観音堂に収められた三十三軀のうちの一軀であること、また光保さんの父であり、同じく住職であった松田法尊さんが古丹消の住人から依頼を受けて京都の松尾寺から取り寄せたものらしいことが分かりました。

現在、この菩薩像は別海町の有形文化財に指定されているほか、毎年六月十五日には僧侶を招き、馬頭観世音祭が催されるなど大切に祀られています。

なお、光保さんは、根室に移られた後も空襲で焼けた開法寺に島から持ち出した経本を寄進するなど、開法寺の復興にも貢献をされています。



光保さんの孫の憲一さんは、信徒名簿を大切に保管されており「持ち出した際の様子など詳しくは聞いていなかった。祖父の生存中にもう少し話を聞いておけばよかった」とお話されました。



松田 憲一 氏